

ダクト発生0~7エリア間オープン情報

2006年 6月29日 JG0TEV 中村

29日は 0~7エリア間のオープンが確認されました。

ダクト発生による0~7エリア間オープンが確認されました。
22:20 JH0INE(新潟県新潟市)-JH7RYN(秋田県秋田市) RS59+-59+

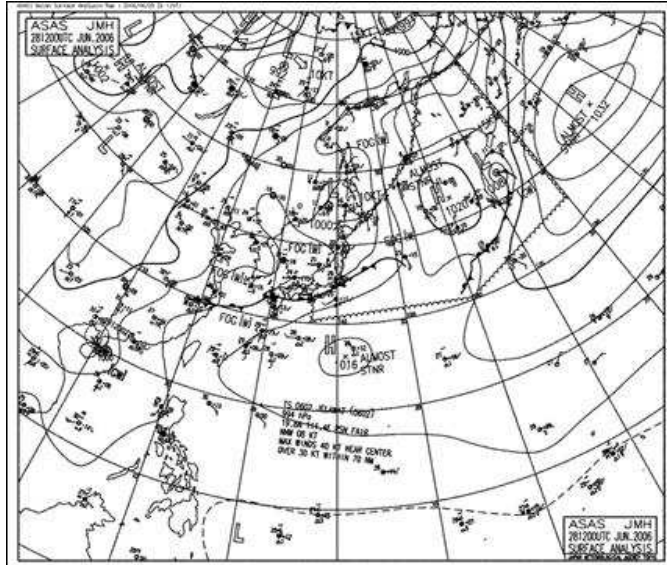
29日には日本海から東日本にかけては高気圧通過に伴い高度上昇、負渦度領域に覆われたことによってダクト発生条件がそろいやすくなったと考えます。

気象解析

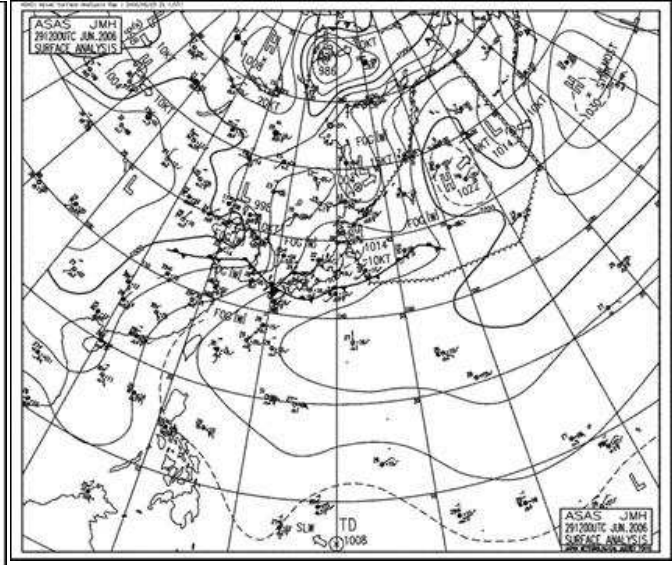
地上天気図から 28日の日本付近に高気圧は解析されていませんでしたが、29日には東北地方に高気圧の中心が解析されています。この地方の地上気圧は上昇したことがわかります。

地上天気図

28日21時



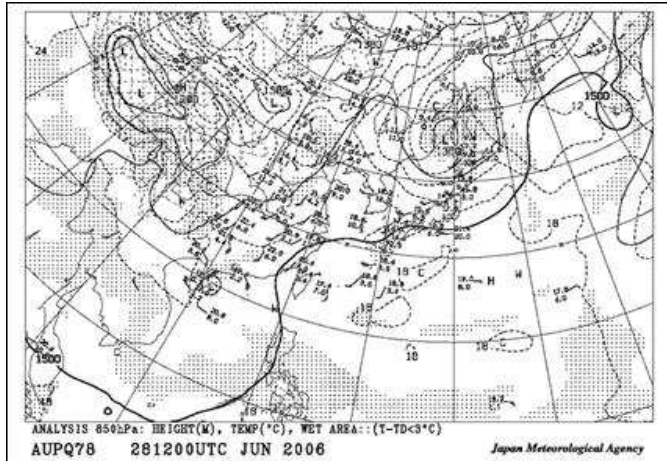
29日21時



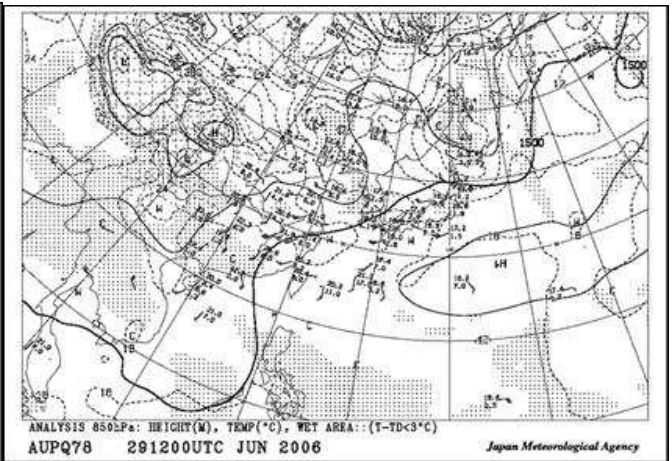
850hpa面解析図をみると、1,500mの等高高度線は28日には本州南岸にありましたが、29日には日本海まで北上したことがわかります。高気圧の勢力が強まったことが分析できます。

850hpa面高度・気温・湿数

28日21時



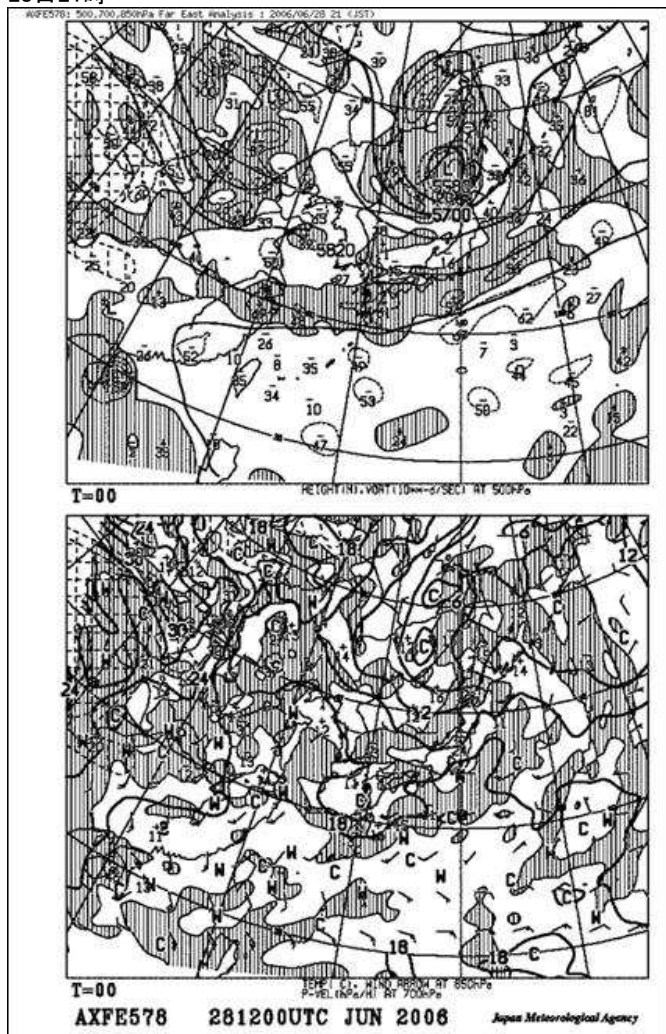
29日21時



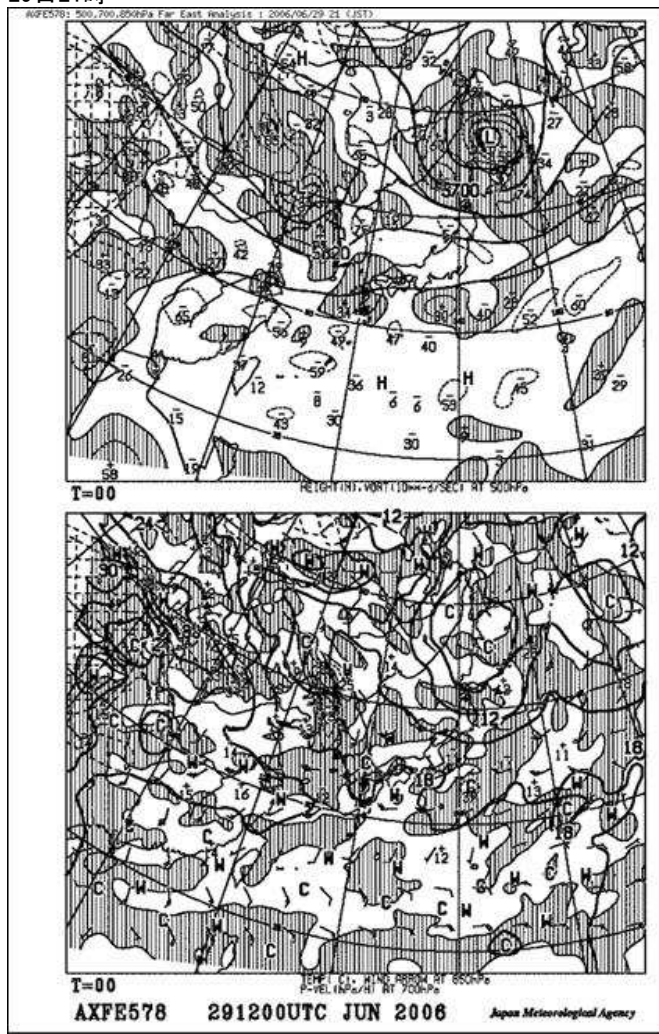
500hpa面の等高線の移り変わりを見ると、5,820mの等高線は28日に本州付近にありましたが、29日には日本海中部まで北上したことがわかります。これに伴って、日本海や本州付近では負渦度領域が広がったことが解析できます。

700hpa面鉛直流解析図では上昇流域が卓越していますが、850hpa面、500hpa面の高度上昇と風向から、南よりのあたたかい空気が流れ込んだことで空気全体があたたまり上昇流として解析されたものでダクト発生に不利な条件ではないと判断します。

500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温
28日21時



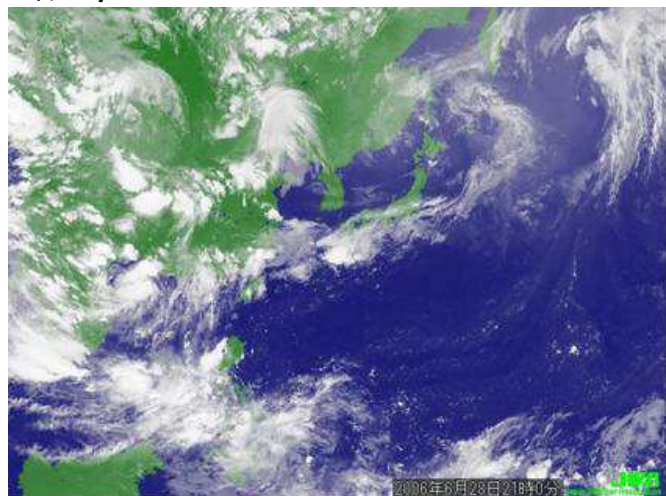
29日21時



以上から、ダクト発生条件がそろいやすくなっていたものと考えます。

【参考】赤外線雲画像

28日21時



29日21時

